

注意を要する感染症（鳥類）



濃厚接触による感染

鳥インフルエンザ

〈感染経路〉

- ・感染した鳥やその排泄物、死体、臓器等に濃厚接触することによって感染することがある

〈症状〉

- ・発熱、呼吸器症状（肺炎）
- ・多臓器不全で死亡することがある

エルシニア感染症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、発熱などの食中毒症状
- ・時に、結節性紅斑※2、関節炎、咽頭炎、心筋炎、髄膜炎及び敗血症※3など多彩な症状を呈することがある

カンピロバクター症

〈症状〉

- ・腹痛、下痢、発熱などの食中毒症状
- ・回復後、まれにギラン・バレー症候群※4を発症

※1 日和見感染：免疫力が弱ったため、通常は病原性を示さない病原体が感染し、発症すること

※2 結節性紅斑：皮膚の下に圧痛を伴う赤い隆起（結節）ができる炎症性の病気

※3 敗血症：血液中に病原体が入り込み、重篤な全身症状を引き起こす病気

※4 ギラン・バレー症候群：筋肉を動かす運動神経が侵され、急に手足に力が入らなくなる病気

糞便を介した感染

（乾燥糞が飛散した塵埃の吸入等による。）

オウム病

〈症状〉

- ・日和見感染※1が多い
- ・免疫不全状態にある場合は、容易に発症し、呼吸器症状、神経症状、皮膚症状及び眼症状を呈する
- ・重症化すると、髄膜炎などの重篤な症状を呈し、死亡することもある
- ・日本でも妊婦が感染し、死亡した例がある

クリプトコッカス症

〈症状〉

- ・発熱、発咳（痰を伴う）、全身倦怠感、食欲不振、筋肉痛、頭痛等のインフルエンザ様症状を呈する
- ・重症化すると、呼吸困難、意識障害により死亡することもある

予防方法

- 鳥類の適正飼養管理を実施する。（乾燥糞の適正処理等）
- 糞を処理するときは、マスクなどで飛散した塵埃を吸入しないように気を付ける。
- 室内で飼育する場合は、ケージや室内をこまめに清掃し、定期的に換気する。
- 口移しで餌を与えたり、食器を共用するなど、鳥類との過剰なふれあいを避ける。
- 鳥類と接触した際には、手洗いを励行する。

